

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

2018年度支部総会・父母懇談会総括



後援会会長
小澤徳（直之／スポーツ健康学部）

今年も7月から8月にかけて、北海道から沖縄までの全国36支部で支部総会・父母懇談会が開催されました。日本各地での猛暑や豪雨被害など、あらためて自然災害の恐ろしさを思い知らされた2カ月でもありました。被災されたご家庭においては、一日も早く平穩を取り戻されることを祈っております。

各支部の総会では、新支部長、新役員による新体制が無事スタートしました。父母懇談会では勉学や学生生活、就職活動の状況など、大学の教職員の方々から鮮度の高い情報をご説明いただき、保護者の皆さまは疑問や不安を解消して安心していただけたと思います。

今年度は5支部で大きな節目となる周年行事が開催されました。新潟県支部は50周年、鹿児島支部は30周年、そして秋田県、山口県、熊本県支部は20周年を迎えました。地元



にした進学相談会や、田中優子総長による公開文化講演会など、校友会と連携した特色のある企画で、記念行事を盛り上げていただきました。

後援会の活動の源泉は、子を思う親心だと思えます。息子、娘たちが法政大学で学んだことを誇りに思い、心の軸となるように、私たち後援会は大学や校友会と連携して、教育環境充実のために会員の皆さまと力を合わせてまいります。末筆ではございますが、支部総会・父母懇談会開催に当たり、田中総長をはじめ多くの大学教職員の皆さまにご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



秋田県支部創立20周年記念事業を終えて



秋田県支部長
山本暢三（稍／経済学部）

秋田県支部は、7月8日（日）にめでたく創立20周年記念事業を開催することができました。これも大学を筆頭に、校友会、後援会本部、秋田県校友会、後援会秋田県支部歴代の役員および会員の皆さま、さらには法政大学を選んでくれた子どもたちのおかげであると深く感謝いたします。



支部総会・父母懇談会では、田中優子総長による公開文化講演会を含む周年記念のセレモニーと、祝賀会を兼ねた懇親会を開催しました。総会後の父母懇談会では、秋田県校友会の方々から、就職時に求められる人材についての助言もいただきました。周年記念のセレモニーでは、男鹿なまはげ太鼓のアクションに続き、歴代役員への感謝状贈

呈、参加者全員には記念タオルとほうせい茶を用意しました。江戸と秋田蘭画を分かりやすく関連付けて説明くださった田中総長の公開文化講演会「江戸から考える変革の時代」では、参加者全員が感銘を受けました。講演を聴講した人数は、佐々木郁夫校友会長、小澤徳後援会長を含めて138人。さらに、祝賀・懇親会には78人が参加し、本事業に花を添えていただきました。



秋田県においては、少子化や多様化する社会問題など、今後の課題も多くありますが、「子どもの母校は我が母校」の合言葉で、30周年を目指してさらに発展、充実させていきたいと思えます。今後ともよろしく願っています。

山口県支部創立20周年支部総会・父母懇談会を終えて



山口県支部長
藏田隆行（天輝／法学部）

山口県支部は、8月5日（日）に湯田温泉ホテルかめ福にて、支部総会・父母懇談会、そして創立20周年記念行事を開催しました。

前日の8月4日（土）には、山口県下の高校生と保護者へ向けての進学説明として、田中優子総長より「なぜ大学へ行くの？」と題した講演と進路相談を催しました。熱心に個人面談に取り組む高校生の姿もあり、これから法政大学の入学を希望する子どもたちへのよい機会になったと思います。



支部総会では、田中総長より退任する役員の一一人に感謝状が手渡されました。父母懇談会では、学生たちの普段の様子や就職活動について、キャリアアドバイザーの方から説明があり、大学全体で手厚い活動とフォローを常に行っていたらいいことが伝わりました。20周年記念行事では、田中総長が

「江戸から考える変革の時代」の講演を開催。現代社会が直面する課題は、江戸の文化から学べるのではないかと、斬新な講演でした。その後、山口県校友会を代表して、岩国市の福田良彦市長より、創立20周年のお祝いの言葉をいただきました。



懇親会では、田中総長との記念の写真撮影のために順番待ちの列が出るほどの大人気でした。応援団によるデモンストラレーションでは、迫力ある応援は、全員で肩を組んで輪になり、肩を揺らしながら歌い、エールを上げました。とても貴重な体験になりました。1年前の役員会から準備を始め、ご協力いただいた大学や後援会事務局の皆さま、近隣県支部の皆さまは、この場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

感謝。青年日本の代表者「若き日の誇り」 （新潟県支部50周年事業報告）



新潟県支部長
山田 昭治（大地／法学部）

新潟県支部は今年、創立50周年を迎えました。これも支部会員はもちろん、大学、後援会本部、校友会の皆さまをはじめ、大勢の方々のおかげと感謝申し上げます。また、昭和43年の発足以来、ご尽力いただいた歴代役員の方先輩方にも敬意を表す次第です。

50周年事業としては、田中優子総長の公開文化講演会と懇親会での応援団のデモンストレーションを実施しまし

た。総長講演会は、法政OBであるBSN新潟放送の工藤淳之介アナウンサーに司会をお願いしました。「江戸から考える変革の時代」を演題に、ゼミ合宿で佐渡に訪れたお話を、浮世絵などの解説についてお話しいただきました。大盛況でありました。



校友会新潟県支部の強力サポートにより、新潟県が運営するウェブサイトを「新潟文化物語」への情報掲載、杉本信行副

支部長のBSNラジオ生出演によるインフォメーション、新潟日報や日本経済新聞紙上での記事掲載など、多様な告知が実現したおかげで、



一般来場者と校友会・後援会で300席が埋まり、大盛況でした。

懇親会での応援団のデモンストレーションは、応援団員とチャリリーダーによる演舞披露でした。チャンス法政から校歌斉唱まで、参加者も一体となって大に盛り上がった後、サブライズがありました。2016年に発生した新潟県糸魚川市の大規模火災の復興支援として、法大応援団が動画サイトにエールを送る動画を公開。「応援動画を見た市民の方々が、大変励まされたと喜んでいました」と、糸魚川市長から田中総長へお礼状が届いたのです。玉木浩副支部長が代読し、田中総長へとお渡ししました。応援団の素晴らしいを再認識し、法政大学を誇りに思った瞬間でした。

2018年熊本県支部総会・ 父母懇談会と公開文化講演会報告



熊本県支部長
松浦 寛幸（大河／生命科学部）

去る8月26日（日）、支部総会・父母懇談会さらに熊本県支部創立20周年記念行事として、田中優子総長の公開文化講演会と懇親会が行われました。田中総長と小澤徳後援会会長が臨席された総会では、2017年度の事業および決算報告、2018年度の事業計画案、予算案、新役員発表など、全ての議案が承認された後、新役員の紹介とあいさつが行われました。

記念行事では、「江戸から考える変革の時代」の演題で田中総長の講演が催されました。大学、後援会、校友会の共催による公開文化講演会という形式をとり、一般来場者も含めて来場者は180人を超えました。



講演の中で、田中総長は熊本に関する話題を多く盛り込んでくくださいました。また今回は、熊本県在住の思想家である渡辺京二氏との対談もあり、非常に興味深く拝聴しました。講演会の終了後には、サブライズゲストとして、熊本県PRマスコットキャラクターであるくまモンが来場者の見送りに登場、触れ合いや写真撮影に気軽に応じてくれました。



懇親会にも、大学、校友会、後援会から多くの方が参加くださり、盛大な会となりました。最後は、恒例の大学校歌斉唱です。現役時代は応援団長を務めていた熊本校友会の小田栄一会長に音頭を取っていただけ、参加者全員で肩を組んでの校歌斉唱で、終了することができました。

鹿児島県支部30周年記念事業・総会・父母懇談会 を終えて（校友会九州沖縄ブロック会議合同開催）



鹿児島県支部長
大迫 隆男（桜斗／経済学部）

8月25日（土）に城山ホテル鹿児島にて、鹿児島県支部総会・父母懇談会を開催しました。田中優子総長、小澤徳後援会会長をはじめ、9人の来賓の方々に出席いただいた支部総会では、全ての議案が承認された後、新役員が選出、滞りなく終了しました。

その後の父母懇談会では、学生生活や履修、就職状況などについての説明や、6月に開催した県出身の学生交流会の報告があり、情報交換で活発な質疑応答が行われました。

30周年記念事業としては、県校友会と合同で田中総長の特別講演会を開催しました。「江戸から考える変革の時代」と題された講演会では、

150人を超す後援会、校友会の関係者らが参加。鹿児島県の文化的特色や歴史を振り返りながら、それが現在にどのような



つながっているのかを考えるきっかけとなるような内容で、貴重な時間となりました。

懇親会では、NHK大河ドラマ「西郷どん」のテーマソングに合わせた、鹿児島実業高等学校書道部のオープニングセレモニーでスタート。会場全体が祝賀ムードに包まれ、30周年に花を添えることができました。恒例の校歌斉唱・エールの際には、約150人の参加者全員で輪をつくり、今までの県支部長の労をねぎらっていたいたことは、感謝にたえません。

最後に30周年記念事業開催に当たり、ご尽力いただいた関係者の皆さまに、深く感謝し、厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

「後援会役員研修会」報告



後援会総務
清水 伸行（智洗／情報科学部）



6月23日（土）、市ヶ谷キャンパスのポアソナード・タワー26階スカイホールにて、後援会役員研修会が開催されました。

今回の役員研修会では、2つの講演を通して、法政大学の「現状と今後」を知るために、大学内で行われている授業の知識を得ることを目的として行われました。

1つ目の講演は、増田正人常務理事による「HOSEI2030と法政大学の今」で、今年度の法政大学の受験者数が全国2位、実受験者数でも2位との報告を受けました。これは、田中優子総長の進めるブランディング戦略が奏功し、いいものを伝えるという広報活動が浸透したことによるものではないかとの説明がありました。さらに、「HOSEI2030」という長期ビジョンの進捗、アクションプランと中期経営計画の現状をお話しいただきました。

続いて、2つ目の講演として、「人工知能と社会」近未来の世界を考える」というテーマで情報科学部の藤田悟教授にお話しいただきました。昨今話題となっているAI（人工知能）についての講演でした。「AIは人間の仕事を奪ってしまうのではないかと」という疑問に対して、コンピュータの歴史をひもとく、現状と照らし合わせての考察を分かりやすく説明していただきました。一例として自動翻訳でAIを使用した場合を想定し、AIの得意なところと不得意なところ、さらに多くの方が使用しているSNSの危険性なども、具体例を交えながら教えていただきました。

